二〇一五年一一月六日

内湾のブイには非ず浮寝鳥　さつき
陵の小さき祠や鵙高音　なつき
久闊の友とおしゃべり日向ぼこ　かずか
紅葉影さす天神の願い絵馬　よし女

二〇一五年一一月五日

木から木へリス忙しき木の実どき　智恵子
照紅葉天蓋なせる船屋形　宏虎
路地小春馴染みの集ふ喫茶店　ひかり
大輪の菊立ち並ぶ家敷門　智恵子
浮寝鳥波間に揺れて池暮るる　宏虎
波音を聴きつつ手入れ菊畑　よし女
賜りし小春日和に断捨離す　明日香

二〇一五年一一月四日

ネクタイは青空の色七五三　よし女
田仕舞ひの煙狼煙のごと上る　有香
文化の日米寿傘寿が句座を占む　はく子
溝蕎麦の花埋め尽くす疎水かな　三刀

二〇一五年一一月三日

熊よけの鈴鳴り響くきのこ狩り　智恵子
石段に袴引きずる七五三　ぽんこ

二〇一五年一一月二日

故郷へトンネルいくつ初時雨　菜々
蟷螂の機械仕掛けのごと動く　泰山
渓谷に湧くごとふゆる蜻蛉かな　智恵子
古墳へとのぼる階鵙高音　三刀
放牛の背中のこぶに赤トンボ　智恵子

二〇一五年一一月一日

どんぐりを並べ百面相描く　智恵子
落葉舞ふ耳朶の大きな石仏　宏虎
蔀戸を上げて句会や秋日和　明日香
心棒の軋む水車や水の秋　なつき
写真撮る足場を迷ふ花野かな　さつき
山里にひびく谺や威銃　泰山
縄文の遺跡への道石蕗明り　三刀

二〇一五年一〇月三一日

ベランダに藁を咥えて小鳥来る　智恵子
日陰より日向がよろし石蕗の花　ひかり
海望む丘に野菊のなだれ咲く　さつき
ドライブのパンクにあらず威銃　泰山
朽ち舟の水漬く岸辺や柳散る　宏虎
大仰な木偶の仕草に秋思憑く　菜々
祭足袋揃ひ宮出の木遣り歌　なつき
童謡に果つ惜秋のコンサート　菜々

毎日句会みのる選・二〇一五年一一月八日